

第142回神奈川大学日本常民文化研究所研究会



日本史学における 古文書学の現在地とこれから

巽 昌子氏

神奈川大学日本常民文化研究所 所員
国際日本学部 准教授

2024年12月18日(水) 17:30～19:00

Zoomミーティング 【開場:17:15】

参加無料

申込方法

右のQRコードよりお申し込みください。
IDとパスコードが自動返信メールにて送信されます。



日本史学における 古文書学の現在地とこれから

古文書学は戦後、古文書を形態や様式によって分類し、その変遷を機能面から辿る方向で体系化された。近年ではそれらの成果を基盤として、文書の伝来過程に焦点を当てる研究や、文書の国際比較を行う研究等が盛んになされている。このように新たな方向へと展開する一方で、古文書学の根幹となる、文書の変遷の解明に関しては研究が停滞している。しかしながら文書の変遷は、当該期の社会や政治の在り方の変化を反映するものであることから、依然として追究する意義を有しているのではないだろうか。

本報告ではこうした問題意識の下、日本史学における古文書学の現在地とこれからの可能性について、報告者の研究テーマと紐づけながら探ってみたい。